



上／美術文化学科前田ちま子氏による授業の様子。小・中学生が興味を引くと思われる絵画や彫刻を、アメリカのボストン美術館の所蔵作品から各学生が選び出す。その作品のコピーを教室に陳列したように貼りだし、学生達によってその作品を解説するシミュレーションを行う。また名古屋ボストン美術館にて実際の作品を前に、小・中学生に解説を行う予定。

左／美術文化棟入り口。以前のG棟（デザイン科が使用していた）を改築し、デザイン学科と棟を共有して授業を行っている。

二年目の美術文化学科

浅野 徹

美術文化学科の開設は2000年4月。この学科の最初の入学生は現在二年生になっているが、来春三年次に進む際に「芸術学」か「芸術環境創造」か、どちらかのコースを選択しなければならない。「芸術学」が美術を理論的にかつ歴史的に研究するコース、「芸術環境創造」が美術と社会を結ぶ方法を研究するコースと一応はいっているが、実際にこの二つのコースの別をはっきりと説明することはなかなか難しい。

前期の終り近く、二年生の多くがどちらのコースを選ぶべきか迷っていると先生の一人が発言されたことから、コースについての説明会を開くことになった。学生たちとの活発な質疑応答を期待したが、率直にいって低調だった。それは無理もないことだったろう。二年生のほとんどが美術文化学科の専門講義をとりだしたのは今学期になってからということも関係して、各自が自分の考え方を整理できるだけの知識も経験もいまだ十分ではなかったからである。

その席上、ふと、私自身からして大学二年の頃はどの方向に進もうかなど、あまり真剣に考えていなかったことを思い出した。私が籍を置いたのは芸術学専攻、要は美術史であって、これは入学のときから決まっていた。だから三年になってコースを選択する必要はなかったが、美術史と一口にいってもその領域はまことに広い。私の興味や関心はさまざまな方面に拡散していて、西洋美術か日本美術かといった大枠さえも決めかねていた。そうした自分を省みれば、いまの新二年生に何かいうべきすじでもない、という気がしてきて困った。

ただ、美術文化学科の二年生と私が違っていたのは、気楽に意見を聞くことのできる先輩たちがいたことである。彼らからA教授の講義をうけるならこの本を読んでおくといとか、B教授の期末試験の傾向はどうだとか、こうした情報をいろいろと仕入れることができたし、また彼らが熱中している画家や美術史の領域について語っているのを聞いて刺戟をうけることも少なくなかった。

美術文化学科の新二年生は開拓者として貴重な存在だが、しかし先輩がいないという点では氣の毒でもある。この短所を乗り越えるためには、先生たちに各自の疑問や意見を遠慮なくぶつけるべきだろう。先生の方は学生から話しかけられるのを心待ちにしているのだから。

[あさのとおる 美術文化学科教授（近代美術史担当）]

学芸員 3人に 聞きました。

今年7月4日[木]に、4,3年生に向けての就職セミナーを行いました。現在学芸員をなさっている3人の同窓生、古道谷朝生氏(網走市博物館学芸員、昭和63年度美術学部絵画科洋画コース卒・16期)、市原有紀子氏(美濃加茂市民ミュージアム学芸員、平成7年度美術学部彫刻科卒業・23期)、加藤きく江氏(文化フォーラム春日井職員、平成8年度美術学部絵画科洋画コース卒・24期)、以上の方々がセミナーの講師として参加しました。

憧れて就職した学芸員。でもその裏側には想像できなかつた困難、そしてそれをも含めてとてもやりがいのある仕事だと、力強く語ってくれました。3人が口を揃えて話してくれたことは、「もっと学生時代に勉強しておけば良かった!」こと。皆さんなんとなくわかっていたつもりの美術史など、いざ実践ではまったく知識不足だったとか。セミナーの後は参加者を含めた懇親会を行い、直接現場の話など積極的に聞いている学生も数多く見受けられました。

『本学卒業の学芸員が語る美術・文化の仕事』 B棟大講義室



左から、加藤氏、市原氏、古道谷氏。

掲示板に 情報を お寄せください。

掲示板について作年のNUAPRESSにも掲載していた、同窓会の学内掲示板が完成しました。しかし現時点では同窓生からの、掲示物の依頼がなかなか集まらないのが現状です。同窓生の方で在学生に伝えたい事、見てもらいたい事がありましたら送って下さい。持ち込み、郵送どちらでも受付をしています。掲示期間や掲示形態など希望がありましたら記入していただければ、できる限り希望に添えるようにしていきます。展覧会のポスター、個展のDM、イベントの案内などどんなものでも掲示していきます。会社の求人案内やアルバイトの募集なども掲示していきますので、お気軽に

御相談ください。掲示板は同窓生と在学生を直接つなぐ事のできる場にしていきたいと考えています。これからも維持運営に頑張っていきますので、同窓生みなさんの情報提供と御協力を宜しく御願いします。

情報送付先 〒481-8535 愛知県西春日井郡西春町
名古屋芸術大学西春キャンパス
名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会事務局
tel 0568-24-0325
fax 0568-25-4190

親 子 DE 名 芸

この名古屋芸父、そして母子がわが母校ースもでてきポートしてい



「悔いのない充実した生活を」
親:デザイン科 第1期卒 太田吉亮
子:絵画科日本画専攻 太田結子



大も昨年度29期生を送り出し、学生だったあの頃は昔、今や何?児のとなっている同窓生も数多く…。そんな人達の中でも、ご自分の娘、息名古屋芸術大学で学んでいるという、めずらしく、かつとても嬉しいケました。さっそくそんな親子そしてライバルとなったお二人の今をレただきました。

「娘と共に」

親:絵画科洋画専攻 第6期卒 外山淳子(旧姓山田)
子:日本画専攻(在学中) 外山千草

娘が、名古屋芸術大学にお世話になって3年目になります。洋画科と日本画科の違いはありますか、まさか親の私と同じ大学に通う事になるとは思いもよらない事でした。

小さい頃から、私の指導するお絵描き教室についてきて落書きはしていましたが、絵が好きそうにもなかつたので教えることはおろか、聞かれる事もありませんでした。ところが、彼女が高校一年の春突然「芸大の日本画に行きたい」と言い出したのです。

それから、絵の勉強が始まり、名芸大で年に1,2回行われる入試説明会に何回か足を運びました。優しい先生方に下手な作品の批評と丁寧なご指導をして頂いたおかげで今に至ります。

娘と、買い物以外に出かけることはなかったのですが、今ではあちらこちらの美術館や寺院めぐりを二人でするようになりました。

また娘の影響で、私の両親も七十の手習いで絵をはじめました。夢は「親子三代展」をすることでしょうか(嬉)。親子で絵を描ける幸福を心から有り難いと感じています。

(在学中)

親子二代の名芸生という事で何を書いたものか悩みました。私が一期生として名芸大に入学した当時と、娘が通っている現代とでは、余りにも違い過ぎるからです。学生数、校舎の数、各科内の選択の幅の広さ等、全てにおいて違います。皆さんもよく御存じのA棟、我々一期生の一年目は、この一棟で殆どの実技を行っておりました。また、実技は午前にあったり、午後になったりという感じでした。

良かった事は、学生数が少ないため、別の科の先生方とも親しく話ができる事でしょうか。現在も指導に当たられておられる彫刻科の石田先生、神戸峰男先生、日本画では片山宏先生、荒木弘訓先生、先生方も若く、先輩のいなし我々には良き先輩でもある様な感じでした。

40名にも満たない一期生から二期生、三期生、四期生と学生数も徐々に増えている、現在では各教室に冷暖房も設備され、中でも先生方は多岐に亘り充実した布陣になってきた様に思います。今の学生の皆さんには、このような環境の中で4年間の学生生活を送るのですから、楽しみながらも何かしっかりとした目的を見つけて、悔いのない充実した生活を送ってほしいと、我が家ともども学生の皆さんにお願いしたく思います。



あっと!驚くタメゴロウ…28年経った。
何!?息子良平も名芸卒業!!なあぬっ!?

親:彫刻科第5期卒

吉崎大樹

子:絵画科洋画専攻(卒業)

吉崎良平

このイントロからして、すべからく年が判ってしまう今日この頃であります。第5期生の皆々様!お元気でありますか?思えばそば降る雨の中、その頃流行のアフロ・ヘアーは雨でびしょ濡れ、気の抜けたベートーベンみたいで伸びかけたソバのような髪毛が目元の辺りにてダンスしていたのを思い出します入学式の日!あれから早28年!!周りを見渡せば孫を抱いた同級生ちらほら。自慢のアフロ・ヘアーは誰のお話なんて?気が付けば余りによすぎる櫛通り?!夏の暑さは地肌を直撃!冬の北風なんぞは容赦無用に一刀両断!!?(おお…寒!!)そんな悲惨なヘアースタイルになってしましましたが、西に水漏れで困ったお客様あれば水道店を手配!東にリフォームの計画の相談あれば飛んで駆けつけアドバイス!北に中古住宅を探して欲しい!南に新築を考えている!住宅に関する萬相談承ります!なんて事言いながら、24時間366日ミサワホームにてしっかりとお仕事させて頂いています。

気が付けばアッという間の28年間で在ります。そうそう、この場を借りましてお知らせが!ここ数年前より竹中智史君(第6期彫刻卒)、八坂宏明君(第5期VD卒)より「河国荘・神清院と仲間達」という事で、みんなで集まろうと岡山辺りで!!なんて話が燐っています。3年内ぐらいには実現させたいと思っていますので、周辺の皆様にはご協力を御願いしたいと思いますので、その節には宜しく御願い致します。お知らせの序に、私個人的にはサルサやラテン音楽の普及に尽力しております。岡山市FM「レディオ・モモ」にてサルサDJ、同好会「サルサ・クラブ」、サークル「ポコ!ポコの会」等を主催、運営しております。岡山出身の同級生の方々も増えてきてますので、関心のある方は連絡下さいね!そういう話で「良さんの親父はサルサ狂!」で彫刻家OB。そんな息子良平は何の不安も無く入学し、親父よりは優秀な成績で卒業させて頂いた事!数十年経てば、今度は孫かあ!?なんて事を思ひながら未だに就職先が定まらず呑気にやっている良さんの事で頭を抱える今日この頃であります。皆さん!今後とも宜しく御願い致します…トホホ・ホ!!?

親 子
DE
名 芸

NOW!

OG/OB

同窓生の今。

同窓生のみなさんの現在を、ご自身でレポートしていただきました。
懐かしい顔がここにあります。

また、こちらのコーナーでは同窓生のみなさまからの近況レポートを募集しております。
ご自分の顔写真・800字程度の近況レポートを同封してNUAPRESS編集部宛にお送りください。さらに「あの同級生の近況を知りたい。ぜひ載せて欲しい。」といった、編集部へのリクエストも受け付けています。みなさまのご要望によっては掲載等を検討させていただきます。誌面の充実のためにぜひご協力ををお願いします。

岩城二三枝（旧姓 犬飼） 絵画科日本画専攻 第18期卒



岩倉郵便局一日局長の記念撮影

1990年日本画科を卒業。その後東京で就職して以後、数多くの転居を繰り返した結果、大学からほんの数分の場所に落ち着き、まさに原点に帰った観があるが…

そんな私は現在、フリーランスとして地方広報誌の表紙や広告の絵コンテの作成を手伝う等、自称「なんでも描きます」などといいかげんなフレーズで売り込んでいる。

しかし、ここに至るまでには、将来、自分が絵を描く姿さえ想像できない程に創作活動から離れたくなった時期があった。それは卒業直後に就いた会社を辞める際の話なのだが、毎日怒涛のごとく大量の絵を描かされるうちに素材、題材に始まり基本理念に至る違い全てが自分の中での戸惑いとなり、はちきれてしまったのだ。仕事として客のニーズに答えなければならない中で描いた物の空虚感がそんな感情にさせた。もっともあれから幾年、そんな感情も若気の至りであったのか、今思えば、「畠違いの作業」は無意味なものでは決してなく、全て自分の実となっていたのだという事を独立した後に思い知らされた。

フリーランスである以上、自分一人の責任のもとに受ける仕事がうまくいかなければツケは100%自分に覆いかぶさるといったプレッシャーもあるが、その一方で、成功した際の達成感は喜びもひとしおである。

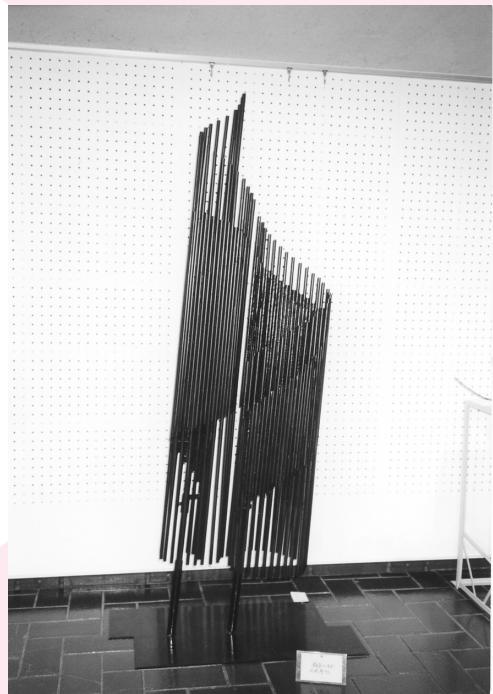
今ではすっかり日本画から離れた生活ではあるが、私の絵を見る人に学生の頃、日本画専攻であったことを告げると大半は何故か大きくうなづく。当り前なのだろうが、絵を描く気持ちはあの頃のままのと共にやはり色使いなどに体に染み着いた「くせ」があるのか?

広報の仕事をしていた際、モチーフにと近所の橋のたもとでスケッチをしていたら、小さな子供が寄ってきて「わあ-うまいじゃん!」と一言。加えて、クリーニング屋のおばちゃんに「いつも絵を見るのを楽しみにしているのよ。」…。素直に喜んでしまった。(f^_^-;)「自分の絵を見てこんな風に感じてくれる人もいるんだな。」と。あり当たりの目標ではあるが、今後さらに人に癒しや安らぎを与えるような作品を提供していきたいと思う今日この頃である。

片岡磨紀 彫刻科22期卒

卒業後の活動は、年に2回 「二科展」に出品していること。そして大学時代に取得した教職を生かして高校の美術の講師、カルチャーセンターなどの教育の現場で活動しています。そんな活動を通じて知り合うアーティスト達との交流を楽しみ、刺激にして彫刻制作に励んでいる毎日です。

これからも日々様々な人達と交わす言葉、表情、そして感動をモチーフに制作を続けていきたいと思います。



小島茂良 デザイン科14期卒



「雨ニモマケズ、風ニモマケズ」

卒業して気がつけば15年が経過し、今16年目を迎えていた。長かったのだろうか。短かったのだろうか。

でも、事実として言えることは義務教育の15年間と同じ月日を社会で過ごし、人間として生きるスキルを社会で学んだということだろう。デザイン科ビジュアルコース卒業後、グラフィックデザインがしたくて、最初に就職したのは印刷会社のデザイン室。仕事を覚えるうちに、スキルアップ、環境の向上、よりよきブレーンの構築を求めて広告制作プロダクションに進んだ。深夜に及ぶクリエイティブワークの毎日。制作者としての苦悩…しかし、そんな環境にバブル崩壊の広告費の大幅削減という現況が待っていた。グラフィックデザインを制作すること。仕事を生み出すこと。どちらも、クリエイティブという視点で捕らえた時、同じに映った。広告を生みたい。広告が捕りたい。広告を制作したい。そんな思いが私を広告会社へと突き上げた。私の経験は何故か約3年ごとに変わっている。こじつけかもしれないが、社会は生きた学校だ。20代、30代、40代とそれぞれの年代に応じて人と出会い、仕事の内容や責任も変わってくる。今春、私は独立した。実に6度目の転機だった。でも、社会に就業してから私は同じ広告クリエイティブというレールの上を走っている。自分が降りたい駅がみつかるまで。

NOW! OG/OB★同窓生の今。

片山浩 絵画科洋画コース版画選択 第21期卒



ギャラリーBEで展覧会をして

大学を卒業してもう何年もたちましたがここ数年の学内の変化は大変なもので今は新しい建物がいくつも出来、歩いていても不思議な気分がします。

今年の6月はギャラリーBEで「家—home visit-」というグループ展をしました。このギャラリーBEは僕が在学していた頃はB棟として外壁は暗いグレイで中は薄暗く、区切られた中にソファがたくさんあって誰がどこにいるのかも分からぬようだったのに、今の学生は当然そんなことも知らず明るいカフェやピロティで騒いでいたりなんだかほんやりしていたりと思い思いに時間を過ごす空間になっています。

とはいまだ以前の面影は見つけることができ、2階の図書館に向かう階段の下には亀のいたあの薄暗い池のあとが青く塗られているしギャラリーやカフェの床には何年もの間につけられた絵の具の滴った後が残っています。このような新しさと自分が学生であったころのにおいがする空間で展示をするということは展覧会をする、ということ以外にも奇妙な楽しさを与えてくれました。

今回のグループ展は伊藤尚子、石倉悦加、加藤万也、小澤輝余子、高梨裕里の6人による展覧会で展示空間であるギャラリーを「家」としてとらえ各作家による展示を試みたものです。展覧会は様々な人に来ていただきいい時間が過ごせました。ひとつ、展示をするまでは思いもよらなかったのですが、作品が掛かってからこの空間がかつては自分にとっても「家」のような空間だったということ。ギャラリーは外見は変わってもここはそういうふとしたことで過去を思える場所のようです。



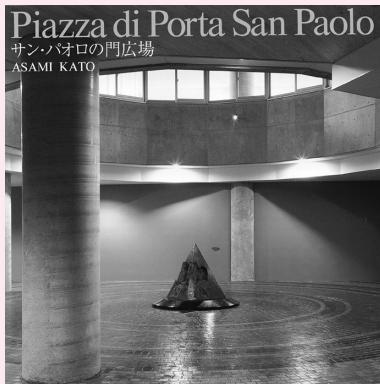
上 ギャラリーBEでの
展覧会の様子

加藤朝美

イタリアからの メッセージ

現在イタリアで作家活動をなさっている、加藤朝美さん。わが母校に帰り彫刻科で専任講師を務めていただいたこともあります。

そんな彼のメッセージを、イタリアから届けていただきました。



Piazza di Porta San Paolo
サン・パオロの門広場
ASAMI KATO



加藤朝美氏

「アートで飯を」

今年の5月に日本で二つの展覧会を終え、今はイタリアに戻ってきました。ローマから不景気な日本へ650kgの作品等を空輸して、どんな個展になるか心配していたのですが、画廊やオーガナイザーの活躍で、大方の作品の行き先が決まり、驚くやら安心するやら。

「アートでどのように飯を食っていくか?」名芸大・彫刻科で教えた2年間(97~99年)で、多くの学生・OBから難しい、そして切実な質問を受けました。アーティストとしてのベースは自分の才能を自問自答することから出発し、更には企画力、表現力、独創性等のトータル的な要素が加わってきます。

しかし、技術を中心に教える日本の美術大学では、感覚的なアートが学びづらいのと、日本的な上下関係の強い美術団体・師弟制度では才能がつぶされやすく、文化より経済、実力より肩書きを優先する社会ではアートが育ちにくいハンディがあります。それなら今の日本より文化に力を入れている国でならアートで飯が食えるのかというと、残念ながら外国も同様か、または日本に無い別メニューの難題が待ち構えています。

個人個人でアートの進み方や生活環境が違うし、食っていくことの方程式などが無い世界なので、学生達の質問に一言で答えられない難しさがありました。バブル時に調子に乗って多くの借金を残して廃業した作家(?)を例に取るまでもありませんが、売れ筋や流行の作品を作るのではないので、売れないのが当たり前の世界なのです。

サロンの落選から始まった印象派の作家たち。生前は1点も作品が売れなかったゴッホ。偉大な先輩たちの足跡を辿ると、食う問題よりも『姿勢』の問題が優先され、三度の飯より制作が好きなこと、コピーや亜流の作品ではなく世界に一つしかない「自分のオリジナル作品」を目指す自覚。そこが出発点にならないと、まだまだ我々の悩みは、そのレベルにたどり着いてないアマチュアなのかもしれません。

Romeより 加藤朝美

美術学部・デザイン学部 平成14年度主な年間事業予定(10月以降掲載)

10	31	芸大祭準備日(全授業休講)
11	3	芸大祭
	9	推薦入試(授業は無し在校生登校禁止)
	22	学院創立記念日
	23	勤労感謝の日
	24	大学院入試
12	21	冬季休業開始／地域入試
	23	天皇誕生日
	24	後期補講・集中講義期間(27日まで)
1	1	元旦
	6	後期授業再開
	11	後期授業終了

14	後期補講・集中講義期間(25日まで)
27	後期学科試験期間(2/1まで)
2	A日程入試／在校生登校禁止(6日まで)
6	3年編入試
11	建国記念日
17	後期再追試験期間(20日まで)
28	研究生研修入試
3	卒業判定
12	進級判定
21	春分の日
22	卒業式
25	B日程入試／在校生登校禁止

今回、同窓会が 後援を行った

展覧会報告

- 去年の後半から今年の前半まで、同窓会が後援を行った展覧会を下記に報告します。
- 今回もたくさんの同窓生が作品の展覧会を行いました。これからも同窓会は同窓生の方々の活躍を応援すると共に作品展等を後援していきますので、後援依頼は後援規約をご確認の上ご応募下さい。
- groupCOM展(2期卒 恒川泰章 他8名)
2001年8月23日～29日:ギャラリーチカシン
 - 宮本英明展(18期卒 宮本英明)
2001年11月14日～19日:ギャルリーくさ笛
 - HOTEI ART ANNUAL vol.3(22期卒 家田仁史 他1名)
2001年11月16日～12月9日:art house七福邸
 - 具象絵画作品展(3期卒 田口貴久 他26名)
2001年11月24日～12月7日:ギャラリーBE be
 - 今破る十年の沈黙西田寿夫水墨画展(15期卒 西田久夫)
2001年11月27日～12月2日:北九州市立美術館アネックス
 - 第5回若武者日本画展(22期卒 福岡正臣 他12名)
2002年1月22日～27日:ゾリタケギャラリー
 - 緑の会展(21期卒 柳瀬雅夫 他7名)
2002年1月23日～28日:ギャルリーくさ笛
 - 佐々木美樹子油絵展(17期卒 佐々木美樹子)
2002年2月1日～28日:画廊喫茶ろこ
 - Flash展(28期卒 森部英司)
2002年2月21日～27日:DESIGN・FESTA・GALLERY
 - 平田隆宏展(19期卒 平田隆宏)
2002年3月15日～24日:ギャラリーAPA2F
 - くらしの和み展(18期卒 樺原厚 他1名)
2002年3月21日～26日:妙香園画廊5F
 - てつそん2002(29期卒 上野奈美 他22名)
2002年3月23日～24日:幕張メッセ展示ホール5
 - それぞれの空間表現展(9期卒 1堂本清文 他8名)
2002年3月26日～31日:岐阜県美術館一般展示室
 - こみみ展2(28期卒 黒川志津子 他3名)
2002年4月23日～29日:愛知芸術文化センター・アートスペースX
 - 飛蝶会日本画展(28期卒 佐竹亜希子 他9名)
2002年5月7日～12日:名古屋市民ギャラリー第11展示室
 - 森下淑美展(16期卒 森下淑美)
2002年5月16日～31日:フォルムギャラリー
 - 第6回幹の会日本画展(23期卒 安川真由美 他2名)
2002年5月21日～26日:愛知芸術文化センター・アートスペースH
 - 家 home visit展(22期卒 小澤輝余子 他5名)
2002年6月1日～7日:名古屋芸術大学ギャラリーBE
 - ギャラリープラネット2002年展(18期卒 宮本英明 他3名)
2002年6月8日～16日:ギャラリープラネット
 - つむじ日本画展(27期卒 小島美奈 他5名)
2002年7月30日～8月4日:名古屋市民ギャラリー第5展示室

★良くご質問をいただくのですが、後援依頼を受けることができない企画等のみ、ご連絡を差し上げます。
よってこちらからの連絡が無い個人及び団体は、その展覧会等の報告を下記の書面に従って提出してください。
同窓会事務局に到着後、順に振り込み作業を行います。

再度確認を！お願いします！

様式1 後援依頼		様式2 報告書	
○年○月○日 名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 第○期○○○科卒業 ○○○○○印		○年○月○日 名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会 会長 青木 高弘 殿 第○期○○○科卒業 ○○○○○印	
下記の作品展について後援をお願いします。			
1) 名 称	○○○○展		
2) 場 所	○○○ギャラリー (住所・電話番号)		
3) 会 期	○年○月○日～○年○月○日迄		
4) 代表者(出品者)	郵便番号・住所 ※氏名(第○期○○○科)・電話番号 注)※印は出品者全員記入		
5) 入場者数	○○名		
6) 写 真	写真○点添付致します。		
以上作品展について報告致しますので後援金の支給をお願い致します。 振込先／○○銀行・○○支店・○○座・N○○○ 住所・氏名(名義)・電話番号			

作品展に於ける後援規約

名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓生による個人又はグループの作品展に対して同窓会が後援する事により、同窓生の社会に於ける活動を支援する。

1.資格

名芸大美術・デザイン学部同窓生で会費を収めた者。

(グループ展の場合おむね3割以上の同窓生で構成し、同窓生全員が会費納入者である事)

2.後援金

個展・グループ展とも1回に二万円とし、年2回以上開催の作品展は年1回とする。但し、後援名使用は認める。

3.手続き

イ)会期3ヶ月前迄に後援依頼書を提出し同窓会役員会の審査を受ける。

ロ)作品展終了後10日以内に、DM及び会場(作品)写真数点を添え報告書を提出する。尚、DM及び写真は資料にするため返却出来ませんので御了承ください。

4.条件

イ)作品展のDM・看板等に後援名「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」を明記する。

5.問い合わせ

名古屋芸術大学美術・デザイン学部事務局
TEL0568-24-0325

ゴールデン プライズ 受賞者

その年にめざましい活躍したと思われる同窓生を表彰するゴールデンプライズ賞。2000年度からは、優れた卒業制作を観覧者による投票形式にて選考し、表彰する卒業生を対象とした賞もはじめました。

2000年度、2001年度の卒業生ゴールデンプライズ賞及び、昨年度の同窓生ゴールデンプライズ賞は下記の方々です。

★同窓会では「あの人気がこんな活躍をした!」「私はこんな作品でこんな賞をとりました。」など、自薦他薦を問わず、同窓生ゴールデンプライズ賞に相応しい人を捜しています。下記のお問い合わせ先にお知らせください。

ゴールデンプライズ賞 卒業制作部門

2000年度

- 大賞 右左見祥子 「惑星Uの植物」(クラフト)
入賞 佐竹亜希子 「田」(日本画)
西原千晶 「ほたる」(洋画)
山口妙 「マブヤー マブヤー ココニイル」(版画)
保久村旭克 「トンカチと僕」(彫刻)
伊藤有紀 「ポスター試案」(ヴィジュアルデザイン)
神谷佳孝 「mobile cube」(インダストリアルデザイン)

2001年度(大賞該当者なし)

- 入賞 森島千秋 「沈黙の気配」(日本画)
伊藤千絵 「アカツキ」「アシタノウタ」(洋画)
岸本和真 「WILL MINATION」(版画)
妹尾あすさ 「たねまき たまご」(造形)
桑田智香子 「D, where are you going?」(SD, ID, TE, ME, CE代表)
岡村真由美 「商店街活性化計画“彩菜”」(VDI, II, EX, D代表)

ゴールデンプライズ賞 同窓生部門

2001年度(大賞該当者なし)

- 佐野剛 (日本画25期卒)
岡本昌子 (日本画23期卒)

後記

■同窓会誌NUAPRESSNo.9を順調に発行することができました。発行に伴いましてご協力頂いた皆様方に感謝を申し上げます。

■今年度よりデザイン学部設立とともに、この同窓会の名称も「名古屋芸術大学美術・デザイン学部同窓会」と変更させていただきました。

今までとはなんら変わらず、同窓生をバックアップしていく姿勢で、これからも内容の充実した活動を行っていくために努力して参りますので、同窓生皆様のご協力及び参加をよろしくお願いいたします。

■同窓会掲示板が、B棟1階の売店前に設置されています。こちらへの情報もどしどしお寄せ下さい。

■第15回同窓会総会・懇親会が11月2日(土)に金山の「e oriental banquet」(詳細は右記)で開催されます。懇親会では、同窓生の交流と共に豪華景品が当たる楽しいゲーム等を企画しています。毎年、先生方も大勢いらっしゃいますので、仲間を説いて是非ご参加下さい。今年も、会費は無料です。多数の参加をお待ちしております。それでは同窓会総会・懇親会でお会いしましょう。

■追伸
NUAPRESSでは今以上の読みごたえのある誌面づくりを目指しますので、同窓生からの原稿や取材希望、同窓生への宣伝等、どんどん事務局宛にお送り下さい。

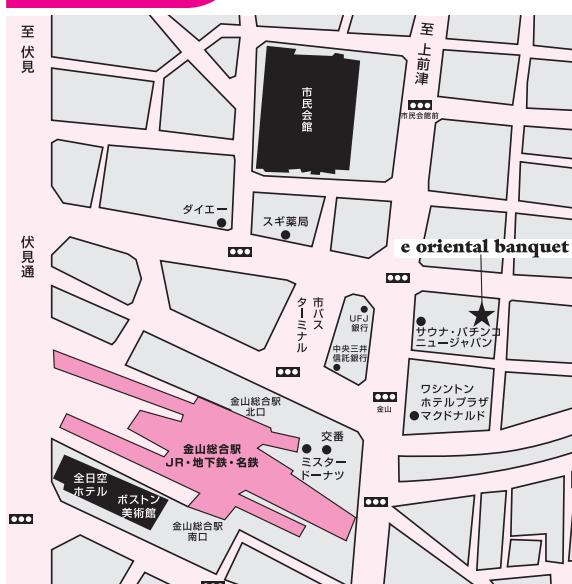
スタッフ一同

おしゃらせ

ごあいさつ 青木高弘

昨年度の懇親会は音楽学部・短大と同会場での開催でした。また美術学部卒業生は会費が無料ということもあり、参加者も増えいつもとは違う盛り上がりを見せ盛況でした。今回はまた趣向を変え、ホテルという場所から、おしゃれなレストランを貸し切っての総会及び懇親会を開催いたします。ただし今回も参加費は無料ですので、お気軽に足をお運びください。

同窓会総会 懇親会の お知らせ



場所 e oriental banquet

名古屋市中区金山4-1-7 ☎460-0012
tel.052-324-0010

交通のご案内

- JR・名鉄・地下鉄金山総合駅北口から徒歩6分。
 - 地下鉄名城線金山駅1番出口から徒歩4分
 - パチンコニュージャパンの北側出入口の並び、すぐ右隣の2階建てのビルです。
- ★なお駐車場は用意されていませんので、ご注意ください。

日時 平成14年11月2日[土]

受付 15:30~
総会 16:00~17:00
懇親会 17:00~19:00

会費 無料 です。

役員紹介

評議員	監査	理事	理事	理事	理事	理事長	副会長	副会長	会長															
(会計)																								
28	28	28	28	28	28	28	28	28	27	27	27	27	27	26	26	25	25	23	22	20	12	20	4	
期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	期	洋	洋	洋	洋	洋	洋	洋	洋	洋	洋	
デザイ	影刻	影刻	日本画	デザイン																				
イン	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画	画									
宮出	神尾	柴井	鶴森	加藤	水野	星野	佐竹	稻穂	鎌田	青木	余語	小島	杉山	佐鈴	宮原	岡藤	小竹	三輪	鈴木	浜辺	江口	杉浦	青木	
哲朗	剛善	通英	雄一郎	加奈子	眞由	アキラ	伸行	桂太郎	桂太郎	考澄	英明	美奈	陽子	晴子	昌子	昌子	陽子	政弘	貴久	由美	紀江	惠美子	芳基	高弘
晴雄	孝季	大通	英司	加奈子	眞由	アキラ	伸行	桂太郎	桂太郎	考澄	英明	美奈	陽子	晴子	昌子	昌子	陽子	政弘	貴久	由美	紀江	惠美子	芳基	高弘

お問い合わせ先

記事のお問い合わせ、投稿、また
住所変更された方など…卒業期、
科、氏名、住所、電話番号をご記入
の上、下記までご連絡ください。

〒481-8535
愛知県西春日井郡西春町
名古屋芸術大学
美術・デザイン学部同窓会事務局
tel 0568-24-0325
fax 0568-25-4190